

## 6年修学旅行 ～広島へ～

例年7月に行っていた6年修学旅行ですが、熱中症対策のため今年度は6月に実施しました。梅雨の時期なので雨天を心配しましたが、広島は暑すぎず雨も降らず、無事すべての行程を終えて帰ってくることができました。保護者のみなさまには、準備や送迎等、ありがとうございました。

約20年前、せっかく広島に行くのだから、ただ見学するだけで終わらせたくない、しっかりと平和について子どもたちに考えさせたい、過去を知り、広島を五感で感じ、平和の未来を考えるという探究のサイクルを進めていく必要があると、教職員が何度も考え始まった、広島修学旅行でのフィールドワーク。なぜ広島に原爆が落とされたのか、復興を遂げた広島から何を学ぶのか、「いまを生きる」私たちにできる平和への行動とは何かなど、多くを学び、考えを深めました。子どもたちは、見て聞いて感じたことを、自分の言葉でまとめました。平和記念資料館の見学では、多くの展示から「自分と同世代の子どもの生活」に焦点を当て、戦争の悲惨さを実感しました。爆心地や袋町小学校・本川小学校の旧校舎など、被爆遺構を巡ることをとおして、リアルな痕跡から想像力を膨らませました。千羽鶴セレモニーでは、実行委員の司会のもと、千羽鶴を奉納し、黙祷を捧げ、平和への誓いを述べて歌を歌いました。未来を担う6年生の平和への思いが、より一層強くなってほしいと願っています。



2日目には、日本三景の一つである宮島を訪れ、世界遺産である厳島神社を見学しました。事前に実行委員の子どもたちが神社について調べ、神社のつくりの工夫や見学ポイントについて、クイズも取り入れながら説明しました。瀬戸内海に浮かぶ有名な鳥居は、昼間潮が引いていたので、鳥居をくぐったり、鳥居に触れたり、鳥居の周りの生き物を観察したりすることができました。戦争の悲惨さ、平和への祈りだけでなく、世界遺産にも触れた、実りの多い修学旅行となりました。

## 本校の校内研究について

校内研究は、3年計画で実施されることが多く、本校でも、昨年度より新しいテーマで研究を進めています。研究主題は、

「心豊かで実行力のある子供」育成のための認知・非認知能力統合的アプローチ

です。本校は、昨年度創立150周年という大きな節目を迎えました。これまでに築き上げてきた教育実践を基盤としつつ、AI時代をたくましく生きる子供たちの成長を、滋賀大学教育学部との強固な連携のもと、この附属小学校の教職員と子供たちだからこそ実現できる、他に類を見ない新たな研究を作り上げたいと考えています。本研究は、教育目標「心豊かで実行力のある子供」の育成をめざし、認知能力と非認知能力の相互作用を、具体的な授業実践をとおして追究するものです。

さて、本校では11月7日(土)に「令和8年度 研究発表協議会」を開催します。今年度は、全国からの参会者を迎えてより多くの授業提案を行うため、例年とは異なる「3回公開(3時間授業を行う体制)」でのスケジュールを導入することとなりました。これに伴い、児童の下校予定時刻が例年の公開日(10:45～11:00頃)より遅くなり、当日の完全下校時刻は11:35から11:50の間となります。なお、学級の公開枠(公開Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)にかかわらず、全児童がこの時間帯に下校することとなります。つきましては、当日の下校時刻について、ご対応をよろしくお願いいたします。

(文責 石田 智香子)